

6年 道徳

公德心4-(1)

番組名 「道徳ドキュメント」

放送回 第14回「河川敷はだれのもの？」

実践者 川崎市立下布田小学校 教諭 片岡 義順

ドキュメンタリー、視聴する子どもの心をゆさぶる番組です。効果的な映像と丁寧なナレーションでクラス全体で理解して、思考できる構成になっています。Webサイトも充実しています。

番組の使い方

活用のねらい

多くの人それぞれのスタイルで利用している河川敷という公共の場を題材にしている。いろいろな人の立場や思いを共感的に受け止めることができる。

本校の近くにも河川敷があり、子どもたちの日常生活の中に位置付いている。公共の場でどのようなことを考えて行動するべきなのかを、番組とその後の授業を通して考えていきたい。

具体的な手立て

- ・**視聴前**に生活体験(河川敷と子どもたちのかかわり)について実態を聞く。
- ・**視聴後**は、番組内のような場面と似たような経験も出しながら感想交流をする。
- ・番組内の2つの立場にたってそれぞれの思いを**グループで話し合う**。
- ・番組内に出た人の思いを想像する⇒それについて自分の感想を述べるという流れでグループの話を進める。
- ・最後は**個々にまとめて考えを表明**する。

授業の概要

本時の目標

- ・河川敷や公園などの公共の場では、他の利用者の立場も考えて使おうとする気持ちをもつ

<視聴前>(5分)

多摩川の河川敷をどのように利用しているのか、これまでの経験から出し合う

<番組視聴(15分)>

- ・見やすい位置へ自由に移動して視聴
- ・メモはとらない

<視聴後>…感想交流(5分)

番組内容と似たような経験をしたり聞いたりしたことも交えて感想交流

班で話し合う(10分)

※話し合いの視点

- ①それぞれの立場の人はどのような気持ちで取り組んでいるのか
- ②その取り組みについてどう思うか(自分の考え)

まとめ…個別学習(10分)

・公共の場でどのような行動を心がけるか考える(個人)⇒班で紹介する

生き生きと学ぶ子どもの姿

全員が話し合いに参加

番組視聴と身近での経験(河川敷)という共通体験が、班での話し合い活動を活発にし、全員が活動に参加することができた。

多様な価値観にふれる

番組に登場する異なる立場の人々の考えや行動を知ること、多様なものの見方やそれらを共感的に理解しようとする態度が養われた。

主体的・協働的な学び

本時のテーマを全員が共有できたことで、グループでの話し合い活動、その後の「個で考える」活動のどちらにおいても全員が主体的に取り組むことができた。

指導を終えて

身近な河川敷を通して、公共の場にいろいろな人がそれぞれの思いでかかわっていることを実感を伴いながら理解していた。その上で自分たちにとってべき行動について考えを深め、具体的な行動を自分ごととして捉えていくことができた。**授業後のアンケートでは、授業の中で友達と学び会えた(90%)、学んだことはこれから活かすことができると思う(86%)という成果が見られた。**

